

研究指導教員の決定と研究指導の方法 <博士前期課程（緑地環境科学専攻）>

（1）研究指導教員の役割

- ① 研究指導教員は、学生の希望する研究課題、研究指導教員の専門分野、指導環境などを考慮し、学生の同意を得た上で研究課題を決定し、研究指導を行う。
- ② 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の学修・研究に必要な授業科目の履修について指導を行う。
- ③ 研究指導教員は学生ごとに1名とし、必要な場合は副研究指導教員を設ける（研究指導教員が助教の場合は、必ず講師以上の副研究指導教員を設ける）。

（2）副研究指導教員の役割

- ① 副研究指導教員は、研究指導教員と協力して学生の研究指導を行う。
- ② 副研究指導教員は、研究指導教員の指導についての学生からの相談に応じ調整を行う。
- ③ 副研究指導教員を設ける場合は、学生ごとに1名または2名とする。

（3）研究指導教員の決定プロセス

- ① 出願者は、学生募集要項記載の教員一覧等を参考に、出願前に研究指導を希望する教員との面談等を行い、出願時に希望する研究指導教員を選択する。
- ② 入学試験時の口頭試問において、出願者が研究指導を希望する教員と希望理由を確認する。
- ③ 専攻教授会において入学予定者の希望に基づき研究指導教員を、併せて必要な場合は副研究指導教員を決定する。
- ④ 原則、入学までに研究指導教員を決定する。

（4）研究指導の方法

本専攻における研究指導の方法は、以下の①～⑥のとおりである。研究指導教員は学生の研究指導を行うにあたり、この研究指導計画を明示し、毎年度の初めに、学生の1年間の研究計画についての打合せを学生と十分に行った上で、以下に沿って、研究指導を行うものとする。学生の研究指導計画の詳細は、学生の研究計画を確認した上で作成し、明示する。

① 研究計画の立案（1年次）

- (1) 学生は、決定した研究課題に関して先行研究を整理し、研究指導教員とともに研究計画を立案する。
- (2) 研究指導教員は、学生の研究計画立案に際し、研究方法、文献の検索や読解方法等を指導する。
- (3) 研究指導教員は、学生が記入し提出した研究指導計画書の研究計画に基づき、課程修了までの研究指導計画を1年ごとに記載し、学生と副研究指導教員に明示する。
- (4) 学生と研究指導教員は、協議のうえ「研究指導計画書」を作成し、研究科長へ提出する。

② 研究の遂行（1年次～2年次）

- (1) 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。1年次では、主に予備的な実験や調査を行い研究方法の確立を図る。2年次では、確立した研究方法によりデータ収集・解析等を進め、その成果を修士論文としてまとめる。
- (2) 研究指導教員は、研究の進行を随時確認し、実験・調査等の手法やデータ解析の指導等、研究の進捗状況に応じた指導を行う。

(3) 研究指導教員は、必要に応じて、研究指導計画の見直しを行い、毎年度の初め、研究指導計画を学生と副研究指導教員に明示する。

③ 研究成果の中間報告（2年次）

(1) 学生は、ここまでの成果と今後の予定について、緑地環境科学プレゼンテーションの授業において報告する。

(2) 研究指導教員は、プレゼンテーション方法等について指導する。

④ 修士論文の作成（2年次）

(1) 学生は、研究成果をもとに修士論文の作成を開始し、研究指導教員のもとで修士論文をまとめる。

(2) 研究指導教員は、修士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。

⑤ 修士論文の提出・発表（2年次）

学生は、修士論文を指定する期日までに提出し、公開の発表会で論文の内容を発表する。

⑥ 研究指導報告書の提出（2年次）

研究指導教員は、「研究指導報告書」を作成し、研究科長に提出する。